

【原 著】

就学前後の子をもつ親の
子育て不安・子育て支援に関する検討

岡崎 由美子 安藤 美華代

A Study on Parental Anxiety Over Child Rearing and Child Care Support for Parents
with Children before and after Entering Elementary Schools

Yumiko OKAZAKI, Mikayo ANDO

2018

岡山大学教師教育開発センター紀要 第8号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.8, March 2018

就学前後の子をもつ親の 子育て不安・子育て支援に関する検討

岡崎 由美子^{※1} 安藤 美華代^{※2}

本研究では、就学前後の子をもつ養育者が、子育てで感じている喜びや不安、必要としている支援について検討し、子育て支援のあり方について考察した。子ども園に通う3から5歳児の保護者と小学1、2年生児の保護者に子育てに関する自記式調査を行い、回答を得られた166名の記述内容について検討した。質的分析から、子ども園児・小学校児童の保護者とも、子どもの成長や姿、一緒に行動することに喜びを感じていた。一方、子ども園や学校での適応や保護者自身の子どもへの対応に不安を感じていた。このような状況から養育者への支援として、就学前教育と小学校教育の連携の強化、保護者同士の交流の場や機会の提供、相談体制の整備、子育てに関する講演会や心理教育の提供、子育て支援に関する満足度の定期的見立てが重要であると考えられた。以上より、子育て支援には、心理的支援を含めた多面的な支援が重要であることが示唆された。

キーワード：養育者，子育て不安，子育て支援，就学前後，心理的支援

※1 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科研究生

※2 岡山大学大学院教育学研究科

I はじめに

近年、日本における少子化は大きな問題になっている。社会的な体制構築の国の取組みとして、1994年に10年計画でエンゼルプラン、さらに1999年に5年計画で新エンゼルプランといった子育て支援施策を策定し、スタートさせた。少子化を加速させた社会的要因や背景の改善に向けた取組みが政府主導で行われ(内閣府, 2017), 「親の育児負担軽減」=「子育て支援」という世の中の流れが作られてきた(今井, 2010)。

このような社会的背景の中で、子育てに悩む母親の育児不安に関する研究が注目されるようになってきたのは40年位前からである。それゆえ、育児不安の測定方法や育児不安の捉え方には未だ曖昧な部分が多く(吉田, 2012), 子育て支援による効果等についての研究も少ない。これまでの知見から、養育に対する不安が就学前後に高まっている(小野・安藤, 2012)ことやまわりのサポートや子育て支援のあり方によって育児不安を低下させることができる(牧野, 1982・手島ら, 2003)ことに着目し、本研究では就学前後の子をもつ養育者の子育てにおける不安等の実態を調査し、子育てにおいて養育者が必要としている支援について検討をすることを目的とした。

Ⅱ 方 法

1 対 象

中国地方A子ども園の3歳(年少)児36名、4歳(年中)児37名、5歳(年長)児36名の子どもの保護者109名とA子ども園と同じ地区のB小学校の1年生50名、2年生38名の子どもの保護者88名を対象とした。そのうち回答が得られたA子ども園の保護者83名(76.1%)、B小学校の保護者83名(94.3%)を有効回答とした。

内訳を、表1、表2に示した。

調査は、2016年6月に行った。

表1 回答者の内訳(A子ども園)

子どもの学年	対象者数(人)	回答数(人)	回収率(%)
3歳児(年少)	36	30	83.3
4歳児(年中)	37	25	67.6
5歳児(年長)	36	28	77.8
子ども園児合計	109	83	76.1

表2 回答者の内訳(B小学校)

子どもの学年	対象者数(人)	回答数(人)	回収率(%)
小学1年生	50	49	98.0
小学2年生	38	34	89.5
小学生合計	88	83	94.3

2 調査方法

A子ども園、B小学校ともに無記名の自記式調査を行った。調査とその内容に理解と協力を得るために、A小学校、B子ども園の管理者に調査の目的および実施方法、プライバシーの保護についての説明を行い、同意を得た。

3 調査内容

調査票は養育者の子育てに関する以下に示す設問①から④で、複数回答可とした選択と自由記述回答により構成された。

① 子育てで喜びや楽しさを感じる時

「子育てで、喜びや楽しさを感じるのはどんなときでしょうか」とたずね、記述してもらった。

② 日頃の子育てで感じている不安や気がかりなこと

「日頃の子育てについて不安に思っていることや気がかりなことはどんなことでしょうか」とたずね、記述してもらった。

③ 子育てで不安な時や悩んだ時のよりどころになっているもの

「子育てで不安な時や悩んだ時のよりどころになっている人やものなど3つを選んで○をご記入ください」として、「友人・知人」「父母」「医師や看護師」「学校の先生」「習い事の先生」「カウンセラーや相談員」「インターネット」「新聞」「雑誌」「その他」の中から、回答してもらった。

④ 子育てについての不安や悩みを緩和していくためにあればよいと思う支援「子育てについての不安や悩みを緩和していくため、どんな支援があればよいと思いますか」とたずね、「子どもに対しての支援」と「養育者についての支援」の2つについて、記述してもらった。

4 分析方法

子育てで不安な時や悩んだ時のよりどころになっているものについては、実態を把握するため、それぞれの回答を選択した割合を算出した。

自由記述についてはKJ法(川喜多, 1997/2006)を用いて内容分析を行った。分析にあたっては、独断的な判断になるのを避け、内容分析やカテゴリ生成の妥当性を高めるために、筆者らと臨床心理学を専攻する大学院生2人とで検討を行った。

5 倫理的配慮

調査に際して、事前に研究の目的および方法を説明し、提出は任意であること、調査結果で個人を特定されることがないことを伝え、管理者および学級担任、保護者の理解と協力を得た。提出をもって、同意とみなした。

Ⅲ 結 果

1 養育者が子育ての中で感じる喜び・楽しさ

A子ども園、B小学校とも、子育てで喜びや楽しさを感じる時は、心身の成長やできることの増加に関する具体的記述で構成される「子どもの成長」、子どもの笑顔や頑張りに関する具体的記述で構成される「子どもの姿」、親子で一緒に行動することに関する具体的記述で構成される「子どもとの共有」といった共通のカテゴリが生成された。子育ての中で感じる喜び・楽しさについて、A子ども園の保護者の内容分析を表3、B小学校の保護者の内容分析を表4に示した。

表3 A子ども園児の保護者が「子育てで喜びや楽しさを感じる時」の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
子どもの成長	64	心身の成長	28	身体を見て大きくなったと思う時 成長した姿を身近に感じられる時
		できることの増加	27	毎日少しずつできることが増えていくこと できないと思っていたことがいつの間にかできていたり、そういった成長を見ることができたとき喜びを感じます。
		思いやり	9	疲れている時にやさしい言葉をかけてくれた時
子どもの姿	34	楽しそうな姿	26	学校や園であったことを嬉しそうに話してくれる時 仕事の疲れが忘れられます。 子どもが楽しそうにしているところを見た時
		兄弟との交わり	5	姉妹で上の子が下の子を面倒見たり、舌の子が上の子のことを気遣ったりしている時も成長を感じます。
		寝顔	3	寝顔を見ている時
子どもとの共有	26	一緒に活動	19	子どもと一緒に遊んだり家事をしたり絵本を読んだりする時
		子どもとの会話	7	一日の出来事を話すなどたわいもない話をしている時
子どもから得るもの	7	母自身の恩恵	5	子どもを通じて自分自身の視野が広がり、気づかなかったことに気づいた時
		母の交友関係の広がり	2	子育てをしているからこそ出会えた人々がいたり、いろいろな場所に出かけたり・・・と自分の行動範囲や交友関係が広がるのも楽しみの一つです。

表4 B小学校児童の保護者が「子育てで喜びや楽しさを感じる時」の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
子どもの成長	63	心身の成長	25	日々子どもが成長している姿を見ている時 昔の頃を思い出して、今の姿と比べると、身体も大きくなったし、しっかりしてきているなど思った時
		できることの増加	20	子どもが、できなかったことができるようになったのを見た時
		思いやり	11	周囲の人たちに気配りできるようになった時
		自立	7	子どもが自立する姿を見た時
子どもの姿	41	笑顔	30	子どもたちの楽しそうな笑顔を見る時 無邪気に遊んでいた、何とも言えない笑顔や笑い声を聞いた時
		頑張り	7	目標に向かって頑張っている姿を見た時
		充実した生活	4	環境の中で学校生活が充実していると思えた時は何よりうれしいです。
子どもとの共有	28	一緒に活動	15	自分で考えて気持ちを伝えたりできるようになった時
		コミュニケーション	13	普段からいろんな形で子どもと関わりあってともに楽しみながら様々なことに取り組むようにしています。

2 養育者が日頃の子育てで感じている不安や気がかりなこと

A子ども園・B小学校とも、子どもの発達や性格等についての具体的記述で構成される「子どもの適応」の共通カテゴリが生成された。A子ども園・B小学校の保護者

表5 A子ども園児の保護者が「日頃の子育てで感じている不安や気がかりなこと」の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
子どもの適応	34	コミュニケーション	15	子どもたちが自分の気持ちを人に伝えられず、がまんしたりいやな気持ちをためたりしているのを感じた時。友だちの輪の中に自分から入っていけない性格なので心配しています。
		子どもの発達	8	わが子はわが子なりに成長しているとわかっていても、ふと、他の子の成長との大きな開きに気づいた時に不安を感じる。
		行動上の問題	7	人をたたく、どなる
		健康面	4	病気やけが
子育ての自信のなさ	30	感情のコントロール	13	疲れている時子どもの話をあまり聞いてあげられなかったり、イライラしておこりっぽくなってしまうところ
		子どもへの接し方	11	子育ての方針が本当に正しいか否か考えることがある。自己流の子育てが不安に感じることがある。
		兄弟への公平性	4	兄弟がいるのでどうしても一人ひとりじっくり手をかけてやれないこと
		迷い	2	甘やかしすぎているのか、厳しすぎるのかなどの境界が分からない。
将来への展望			3	将来のことなど考えると不安はつきないですが、子育ての時期は短いので楽しみながら子どもと笑顔で過ごしたいと思っています。

表6 B小学校児童の保護者が「日頃の子育てで感じている不安や気がかりなこと」の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
子どもの適応	39	コミュニケーション	15	きちんと周りの友だちと仲よくできるかどうか。学校のルールや世の中のマナーを守ったり身につけているかどうか。
		反抗	8	人の話が聞けなかったり、何度言っても指示が通らないことがある。
		勉強	7	勉強が身についているかどうか
		身体面	4	病気やけが
		心理面	3	子どもが自信をもって自分を大切に思うことができているかどうか
		生活面	2	ゲームをする時間が長いこと
親の適正	24	子どもへの接し方	13	子どもの変化に素早く反応できているか。時には見守ることも必要でしょうし、時にはサポートすることが必要でしょう。親として上手く順応しているかどうか不安に思うことがあります。
		子どもに対する言い方	5	言ってもきかない時、だんだん声の大きさがUPして叱ってしまうことが子どもにとってよくないと思う。
		遊びの不足	4	学校と家、家との習い事でほとんど“遊びに行く”ということができないこと
		環境の整え方	2	のびのびと生活できるような環境作りができているのか。心のよりどころとなる場所や人を確保できているのか
学校環境への不満	6	学校生活の不透明さ	3	学校での様子がわからないので、もっと気軽に知らせていただけるツールがあればありがたいです。
		休み時間の少なさ	3	学校での運動&外遊びの少なさ。下校時刻が遅いため、公園遊びが全くできないこと
特になし			9	特に、今のところはないです。

ともに、子どもの身体的健康面より性格、発達、行動上の問題が気がかりであり、子どもへの対応に不安を抱いていた。保護者が「日頃の子育てで感じている不安や気がかりなこと」について、A子ども園児の保護者の内容分析を表5、B小学校児童の保護者の内容分析を表6に示した。

3 養育者が子育てで悩んだ時に養育者にとってよりどころになる人やもの

子育てで悩んだ時に養育者にとってよりどころになる人やものについて、図1に示した。「友人・知人」が66.7%～82.4%、「父母」64.7%～72.0%で、いずれの年齢層の子どもを持つ養育者についても、半数以上に見られた。また、「学校の先生」

29.0%～50.0%についても、3割弱から半数程度で、よりどころになっているという回答が見られた。3割に満たないものの、「インターネット」17.9%～36.0%、「医師や看護師」4.0%～17.9%、「習い事の先生」0%～17.6%、「カウンセラーや相談員」0%～8.0%がよりどころとなっている養育者も見られた。一方、雑誌や新聞は、年少および年中の子どもを持つ養育者では、よりどころとなっているという回答は見られなかった。新聞については、年長および小1の子どもを持つ親からも、よりどころになっているという回答は見られなかった。

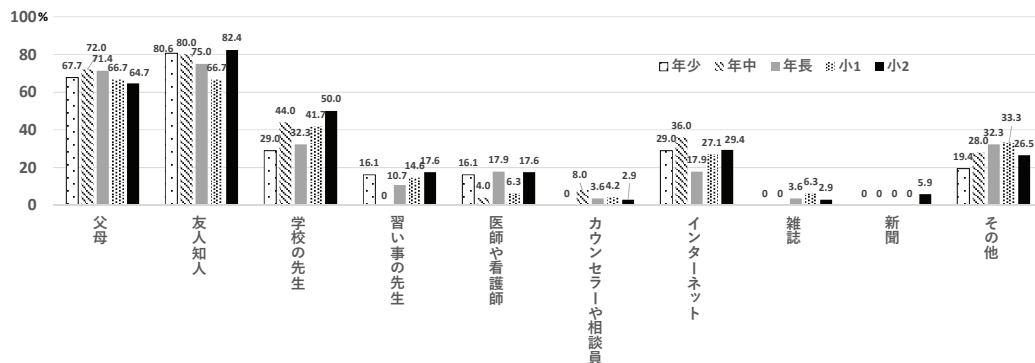


図1 子育てで悩んだ時によりどころになる人やもの N=166

4 子育てについての不安や悩みを緩和していくためにあればよいと思う支援

保護者が子育てについての不安や悩みを緩和していくためにあればよいと思う子どもに対しての支援について、A子ども園の内容分析を表7、B小学校の内容分析を表8に示した。A子ども園では、子どもと先生との相談のやり方等についての具体的記述で構成される「子どもとの面談の場」、遊び場・預かり施設の整備等に関する具体的記述で構成される「園外環境の充実」等のカテゴリが生成された。B小学校では相談方法や体制の整備に関する具体的な記述で構成される「面談・相談」や学校教員への要望や学校環境の充実に関する具体的記述で構成される「教員への要望」「学校環境の充実」等のカテゴリが生成された。

保護者が子育てについての不安や悩みを緩和していくためにあればよいと思える養育者への支援について、A子ども園の内容分析を表9、B小学校の内容分析を表10に示した。A子ども園では、保護者交流や保護者へのセミナー・講演会についての具体的記述で構成される「子育ての情報提供」、すぐに相談できる場や相談体制の整備等に関する具体的記述で構成される「相談しやすさ」等のカテゴリが生成された。B小学校では相談環境の整備や他の保護者との交流等の具体的記述で構成される「校内環境」「校外環境」等のカテゴリが生成された。

表7 A子ども園児の保護者があればよいと思う子どもへの支援の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
園外環境の充実	14	遊び場	8	降園時や放課後に(親や)子どもたちが気軽に集まって遊べるような場所があるとうれしいです。
		預かり施設	6	一時預かりや託児等をもっと気軽に利用できるようにしてほしい。
子どもとの面談の場	11	先生と1対1で	5	マンツーマンで先生と面談する時間
		子どもと先生の面談	3	子どもと先生の面談
		家庭との連携	2	園での様子を適宜教えていただき、何かあれば対応と一緒に相談させていただければ助かります。今も色々よくしていただいています。ありがとうございます。
		子どもへの周知	1	幼稚園の子に対しても悩んだらこうするんだよ、だれに言うんだよみたいなお話を先生からしてほしい。
要望したいこと	7	先生の対応	3	どンドン叱ってください。
		体験の機会	2	昔遊びや伝統行事など家庭でできなくなった文化について出会いの場をもらえるとありがたい(実際に園でたくさん経験させてもらっています)
		異年齢との遊び	2	異年齢との遊びの場、遊び
		公的支援	1	小学校に上がっても医療費を無料にしてほしいです。
親以外からの支援	2	親以外の信頼できる人	2	親に叱られてもちょっと逃げ場となるような祖父母のような温かい存在の支援
特になし	4	今で満足	3	今のままでよいと思う。
		なし	1	期待しても無理なので

表8 B小学校児童の保護者があればよいと思う子どもへの支援の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
面接・相談	18	人や環境の整備	5	家族以外に親身に話を聴いてくれるくれる人や環境の充実
		カウンセラーへの相談	4	スクールカウンセラー等中立的な立場の方
		気軽に相談できること	3	子どもたちが気軽になんでも話せるような所(人)
		マンツーマンでの相談	3	マンツーマンで面談。先生と生徒。
		定期的な相談	2	学期ごとに、子どもと先生が1対1で話ができる時間を作る。
		タイムリーな相談	1	何かあった時にきちんと話を聴いていただきたい。
教員への要望	8	教育方針	4	今は何もないが、友だちとのかかわり方などは、今後親は口出ししない方がいいと思うので、円滑な対人関係が築けるよう、その都度導いてほしいです。
		子どもの観察	2	子どもたちだけの様子をチェックできるのいいなと思います。なかなか言い出せないことをキャッチしてくれると心強いです。
		子どもへの個別の支援	2	私立でもフォローについてくれる先生が、もう少しいると助かります。
学校環境の充実			5	授業量運動量が多いため、ストレスが非常に多いと思う。遊びや運動をもっと取り入れてほしい。
他者との交流	3	保護者同士	2	先輩の方々に話を聴く機会があれば参加してみたいです。
		子ども同士	1	他者との交流など、いろいろな枠組みを超えた人との交流の支援
特になし	7	現状に満足	4	学校の先生方には本当によくしていただいておりますので特にありません。
		考えが特にない	3	特に考えがありません。

表9 A子ども園児の保護者があればよいと思う養育者への支援の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
子育ての情報提供	17	保護者交流	10	違う世代、少し自分の子どもより大きい子を持つお母さんとの交流(経験談とか聞けそうだから)。
		セミナー・講演会	7	子育てセミナーがいっぱいあればいいと思う。
相談しやすい	16	すぐに相談できる場	6	気軽に相談できる機会や場所の提供
		相談体制の整備	6	先生への相談しやすい体制
		様々な相談手段の活用	4	対面、メール、電話を問わず、気軽に悩みを相談できる機関が店、駅等の身近な施設にあればいいと思う。
国への要望	6	子育てに柔軟な政策	3	勤務体制にかかわらず保育をしてほしい。
		勤務体制の緩和	2	子育て中の親への余裕(時間的、経済的に)
		金銭面の緩和	1	減税や保育料の値下げ
預かり施設	5	緊急に預けられるところ	4	急用急病の時にでも預けられるところ
		一時保育	1	一時保育の充実
特になし			2	少し息抜きできるような支援

表10 B小学校児童の保護者があればよいと思う養育者への支援の内容分析(N=83)

上位カテゴリ	人数	下位カテゴリ	人数	具体的記述例
校内環境	18	教師以外との相談	10	個人懇談の時に、担任の先生とは別に、カウンセラーの先生とも話せる時間を設ける。
		先生との連絡連携	5	子どもの日々の様子をありのままに教えてくれること
		親に対してのセミナー	3	セミナー、講習会の実施
校外環境	4	交流施設	2	親子キャンプなど、希望者が集まるような機会があれば一緒に不安や悩みなど共有できるのでは？と思います。
		預かり施設	2	少しの時間(買い物や病院受診)、気軽にあずかってもらえる施設がもっと増えてほしいと思う。
金銭問題			3	仕方ないと思うが、金額のフォロー
特になし	12	特になし	7	特になし
		現状でよい	5	今の時点ですでに支援いただいていると思います。

Ⅳ 考 察

2014年度以降、法改正によって子育て支援の拡充を図るための保幼小の連携強化や保育の充実等の対策がたてられている(内閣府, 2014)。

保幼小連携という新たな政策が打ち出された背景には、「家庭や子育て環境の変化」「小1プロブレムの露呈等、幼児教育と小学校教育の接続の必要性の高まり」等があり、規範意識を育む機会の減少や若手教員の増加による指導力不足が指摘されている(鞍馬, 2015)。また、小学校での集団教育としての学級経営がうまくいかない理由として「就学前教育との連携・協力の不足」(13%)、「教師の指導力不足」(低学年で21%)があげられている(上野, 2007)。そこで、保幼小を通した子育ての現状を把握し、保護者の持つ子育てについての不安や悩みを理解した上で保護者・養育者への支援を通して教育力の低下に繋げたい。また、養育者にとっては、父母がよりどころと

して子育てにおける大きな存在であることが考えられた。しかし、家族形態による育児不安を持っていることへの違いを明らかにしている研究はなく(牧野, 1982), 最近では核家族が多く家族形態による比較もできなくなっている。

本研究の調査では就学前就学後とも保護者の支援として、他の保護者との交流、専門家からの知識提供や個別相談への要望が多いこと等が見受けられた。

本研究における子育て支援のあり方についての提示

① 就学前教育と小学校教育の連携を強化していくこと

平成17年の中央教育審議会答申では小学校教育へのつながりを意識した就学前の幼児の学びのあり方の充実が求められている(文部科学省, 2008)。また、就学前教育を充実させることが小学校教育を充実させるという考え(内閣府, 2015)のもと、新体制への移行を推進させていった。そこで、小学校とその小学校への就学の可能性のある子ども園・幼稚園・保育園の教職員同士で教育内容のつながりについて定期的に共通理解を図っていくことが必要であると考えられる。

② 保護者同士の交流の場や機会の提供をすること

本研究の子育てについての調査で、養育者があればよいと思う支援について【世代が違う母親との交流の場】や【親子一緒に参加するイベントの開催】を望む内容の具体的な記述が見られた。親子が安心して集う場の提供は、親が親として成長することを促すことにつながる(大豆生田, 2007)という研究結果が明らかにされている。しかし、育児不安が軽減し育児についての学習効果がある場合もあれば、他の親子との交わりに参加することで育児不安が増幅される場合もある(住田・溝田, 2000)という報告もされている。養育者同士の交流や親子が集える機会を目的とした場の提供を就学前後の子どもが通う子ども園や小学校が心がけることは重要ではあるが養育者個々により不安には差があることを理解して提供していくことが重要であると考えられる。

③ 個別相談体制の整備をすること

本研究の子育てについての調査では、【様々な手段を活用した相談しやすい体制の整備】を望む内容の具体的な記述がみられた。相談が可能な時間、場所、手段等、養育者の立場からも子どもの立場からも多方向から相談がしやすい体制づくりが望まれていることが実態として明らかになった。子育ての悩みは、子ども自身のことから家族関係にかかわるものまで多岐にわたり、多角的総合的な相談ができる体制が望まれている(中岡ら, 2013)。そこで、専門家による相談だけでなく現場の教職員など普段から子どもに接する機会のある教職員との相談体制を整備することが重要であると考えられる。

④ 子育てのセミナーや講演会を実施すること

本研究の子育てについての調査では、【子育てセミナーの開催】を望む内容の具体的な記述が見られた。核家族化等の影響のせいか、家族内での子育てに関する知識や情報の伝達が難しくなったせいか子育て支援として「子育てについての一般的な情報を得たい」という要望が高い(小川ら, 2010)ことが報告されている。養育者が

参加しやすい時間帯や場所を考慮した子育てセミナーや講演会の開催を推進することが重要であると考えられる。

⑤ 父親の育児への関わり方の意識を高めること

本研究の子育てについての調査で、子育てで悩んだ時に養育者にとってよりどころになるのは、家族の中では「父母」であり、父親である「夫」であることにつながる回答はその他を選択したものうちの一部であった。櫻谷が行った調査では、半数以上の父親が家事だけでなく子育てへの主体的なかかわりを行っておらず、妻の3人に一人は無理であるとあきらめている現状がある。本研究での調査の回答に関しても、回答者166名のうち父親が回答したものは2名のみであった。父親の職場環境が育児参加に大きな影響を与えてはいるが父親自身の意識にも問題があり、父親(夫)の意識改革が求められている(櫻谷, 2004)。夫の協力の度合いが高ければ、母親のポジティブな感情は高まることが報告されている(中村, 2007)。夫の家事・育児への協力意識を高めることや協力できる体制づくりが重要であると考えられる。

⑥ 参加をすることで肯定的な変化が得られるような保護者対象の心理教育的プログラムの提供をすること

子育て支援においては親子のコミュニケーションを図る視点を持ち、具体的なコミュニケーション作りがポイントになる(米澤, 2004)ということが明らかにされている。また、心理教育“サクセスフル・セルフ”では、子どもは学校で心理教育“サクセスフル・セルフ”の授業実践を受け、授業後には家庭で保護者と授業のめあてに沿ったコミュニケーションの実践をホームワークとして親子で実践することで親子コミュニケーションの促進が図れる(岡崎・安藤, 2014)ことが明らかにされている。そこで、子育てによい影響を与える可能性のあるプログラムを児童の実践に合わせて保護者にも一緒に提供し、親子で実践を図れるような支援体制を整えることが学校での教育計画の中に組み込まれていくことが重要であると考えられる。

⑦ 養育者の子育て支援への満足度を継続的に測っていくこと

育児支援は、ただ単に支援の量を増やす事だけでなく、その支援における母親の満足度を高められるかが重要であることが明らかにされている(大森, 2010)。しかし、育児不安の測定方法や育児不安の捉え方には未だ曖昧な部分が多い(吉田, 2012)ので、本研究で明らかになった養育者が必要としている支援についても、支援を行ったことによる養育者の満足度等の心理面での評価が重要であると考えられる。

V まとめ

就学前後の子をもつ養育者の子育てにおける不安等の実態を調査し、子育てにおいて養育者が必要としている支援についての検討したところ、他の保護者との交流、専門家からの知識提供や個別相談への要望等が多いことが明らかになった。本研究では、今後に向けて人や時間等の物理的な支援だけではなく、意識や行動の肯定的な変化を可能にするような心理的支援を提供することが重要であることが示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様，実施していただきました子ども園・小学校の教員・保育士の皆様，ご理解とご協力をいただきました保護者の皆様に，感謝いたします。

本研究の一部は，日本健康心理学会第29回大会で発表したものを加筆修正したものです。貴重なコメントを頂きました皆様に感謝いたします。

参考・引用文献

- 今井康晴 子育て支援行政に関する研究―問題点と課題の把握―. 日本ペスタロッチ・フレーベル学会，2010
- 上野ひろ美 保幼小の連携の課題に関する考察. 教育実践総合センター研究紀要16巻，2007
- 大森彩子 母親の育児不安およびパーソナリティと有効な子育て支援の関連. 日本女子大学人間社会研究科紀要第16号，2010
- 岡崎由美子・安藤美華代 心理教育“サクセスフル・セルフ”を活用した小学校低学年の親子コミュニケーション支援の試み. 岡山大学教師教育開発センター紀要第4号56-62，2014
- 小川恭子・小川千晴・坪川紅美・和久田佳代・森下恵理 子育て支援のニーズ調査. 聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要第8号p51-61，2010
- 小野稔文・安藤美華代 母親が抱く養育不安に関する研究. 日本心理臨床学会第31回大会発表論文集466，2012
- 大豆生田啓友 「支え合い，育ち合いの子育て支援」. 関東学院大学出版会，2007
- 川喜多二郎 発想法―創造性開発のために. 中公新書東京，1967/2006
- 蔵岡幸一・亀島信也 子育て支援教室を母親はどのように評価しているか 関西福祉科学大学紀要9号249-258，2005
- 鞍馬裕美 保幼小連携推進に関する一考察 ―東京都品川区における連携事例の分析を通じて―. 明治学院大学心理学紀要25，21-33，2015
- 櫻谷真理子 今日の子育て不安・子育て支援を考える～乳幼児を養育中の母親への育児意識調査を通じて～. 立命館人間科学研究第7号，2004
- 住田正樹・溝田めぐみ 母親の育児不安と育児サークル. 九州大学大学院教育学研究紀要3号23-43，2000
- 手島聖子・原口雅浩 乳幼児健康診査を通じた育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要 1，15-27，2003
- 所 貞之 「子育て支援」の福祉的アプローチの理論化に向けた基礎的研究 立教大学コミュニティ福祉学部紀要第6号31-44，2004
- 内閣府 子ども・子育て支援新制度における教育委員会の役割について. 東京，2015
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 子ども・子育て新システム関連3法案について. 東京，2017
- 中岡素子・小川佳代・富田喜代子・前田宏治・加藤孝士・高橋順子・石原留美・尾崎八代・中澤京子・三木章代・吉村尚美・江口実希・富田真佐子 A県における子育て支援ニ―

- ズに関する調査研究(その1)―子育ての悩みやストレス解消法の地域比較. 四国大学紀要(A)40:1-12, 2013
- 中村 敬 地域における子育て支援～育児ストレスとその生成要因について～. 大正大学研究紀要第92号p316-336, 2007
- 牧野カツコ 乳幼児を持つ母親の生活と＜育児不安＞. 家庭教育研究所紀要, 1982
- 丸谷充子 子育て支援者がとらえる親子の成長聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要第8号51-61, 2010
- 吉田弘道 育児不安研究の現状と課題. 専修人間科学論集心理学篇, 2012
- 米澤好史 子育てと子育て支援のあり方に関する心理学的考察. 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, No.14. 113-122, 2004

A Study on Parental Anxiety Over Child Rearing and Child Care Support for
Parents with Children before and after Entering Elementary Schools

Yumiko OKAZAKI*1, Mikayo ANDO*2

The objective of this study is to understand child care support systems for parents, based on analyses of data from parents with children, relative to need, degree of anxiety, and level of happiness during child rearing years. Parents of pre-school children, aged 3–5 years and/or 1st and 2nd graders answered a self-reported questionnaire on child rearing. This data of 166 parents were analyzed qualitatively. Most parents with children before and after entering elementary schools reported happiness through child growth and being together. On the other hand, some parents felt anxiety concerning child adjustment in school along with their own attitudes toward their children. It was suggested that collaborative child care support during pre-school and elementary school years would be helpful in providing opportunities to facilitate communication between other parents. This would include consultation concerning child rearing anxiety, and opportunities to attend lectures and psychoeducational workshops. Evaluation of child care support systems is necessary for better outcomes. In conclusion, it may be important to prevent child rearing anxiety through various support means, including psychological support in child care.

Keywords: parent, child rearing anxiety, child care support, before and after entering elementary school, psychological support

*1 Joint Graduate School in Science Education, Hyogo University of Teacher Education

*2 Graduate School of Education, Okayama University
